

東京海上ビルディングを愛し、その存続を願う会趣意書

東京海上日動火災保険株式会社は東京海上日動火災保険本社ビル(東京海上ビルディング)を解体し、新たなビルを建設(二〇二三年度着工、二〇二八年度完成予定)するために、一二年六月までに本社を移転することを発表しました。

このビルが超高層ビルとして竣工したのは一九七四年で竣工後四六年しかたつていません。

現在の東京海上ビルディングは、建築基準法による二一 Ⅲの絶対高さ制限が容積規制へと移行し、超高層建築が可能になった時に、これからの都市空間のあり方を模索し、建築を高層化することによって太陽の光が差し込む広場を足元に確保し、豊かで人間にやさしい都市空間をつくらうとして建てられた建築です。

これについて、このビルの設計者の前川國男は次のように述べています。

「海上火災はあの敷地に一〇〇〇%の建築容積を建築するには、高層にして建ぺい率を約三分の一に押さえた方が『公益』に貢献するゆえんであるとの判断にもとづいて、あえて工費上、また、いわゆる事業採算上の利点を抑制して高層計画に踏み切ったものである」

一九六六年十二月「再び都市美について」

「日本の超高層は、現代都市によって破壊された自然を回復し、緑と太陽の空間を人間の手に取り戻す手段：『自然』につつまれ、自然に参加する『人間』を確立する方途に建築物を空高く積み上げて、緑と太陽の自由な都市空間をつくり出す以外にどんな手段がありうるか」

一九六七年十二月「超高層ビルの意味」

前川は、都市に太陽が降り注ぐ、自由でオープンな広場を確保することが、これからの都市空間にとって非常に重要なことと考え、その手段として超高層ビルを考えていました。その意味を理解し、企業の社会的責任を果たし、「公益」に貢献する決断を前川と共有した、当時の東京海上火災保険会社の経営者たちの英断によって、現在のビルは建てられ、都市における超高層ビルのあるべき姿として存在しています。

私たちは、この解体・新ビル建設の情報を発表前に入手し、何とかこの建築が存続できるよう、新ビルの設計者である三菱地所設計および東京海上日動火災保険の管理部門の方々と話しましたが、物別れに終わりました。この対応は紳士的に行われ、私達も海上側が公表するまで口外しないようにとの要望を受け入れ、われわれにできる、なにかよい方法はないかを検討してきました。しかし、こうした状況の中で、存続運動が非常に難しいことが徐々にわかってきました。

存続運動が難しい理由は、

- ① 建物が公共施設でなく、民間所有物であること。

②建物の利用者が東京海上とその関係者だけであり、一般市民の利用がないので利用者からの存続への希望が出にくいこと。

③建築物の著作権は、日本では非常に評価・認識が低く、公共建築の設計では契約書でその放棄を書かされることすらあること。

④この建築で最も大切な広場への評価・意識も時代とともに変化しており、計画時に考えられた、太陽と緑に恵まれ、市民が自由に入出りできる、都市空間のあり方としての広場というより、もっと気さくで親しみやすい、つまりお茶が飲めておしゃべりができるカフェ的憩いの場の方が当世風で市民に受け入れられやすいこと。などです。

こうした問題点を理解した上でも、なお、東京海上ビルは存続させる価値があり、この建築を失うことは、日本の建築文化や都市景観上の一大損失であると考え、存続のための活動を行うことにしました。

私たちにあって、東京海上ビルディングは、

①日本の超高層ビルの嚆矢であり建築作品として非常に優れており、日本が持ち得た最高レベルの超高層建築であり、その作品を取り壊すことは、まさに文化に対する冒瀆であること。

②日本の都市景観のあるべき姿を提示しており、太陽が降りそそぐ自由な広場と一体となって、豊かで人間にやさしい都市空間を具現しており、今後の都市景観への大切な指標として重要であること。

現在、丸の内地区の再開発で建設される、敷地をできるだけいっぱい利用した上で、さらに二〇〇mもの高さの超高層ビル群は、都市空間としてこれだけでいいのか。こうした状況に警鐘を鳴らす存在であること。

③日本の都市計画史上の輝かしい記念碑であり、都市計画の方法とし容積制を導入したおり、その理念を正しく理解し、政治的圧力にも屈せず、広場と一体となって具現化した建築であり、今後、都市計画が現実的利益誘導や政治的圧力に屈して方向を間違えないためにも、あるべき姿を提示している道標(ルビ・みちしるべ)となっていること。

だと考えています。

こうした考えのもとに、存続のための運動をするためには、われわれの考えが多くの方々の共感を得られるものかどうか知る必要があると考えます。できるだけ多くの皆様のご意見をお聞きし、そのご意見を糧としてこれからの活動を進めていきたいと思っております。